

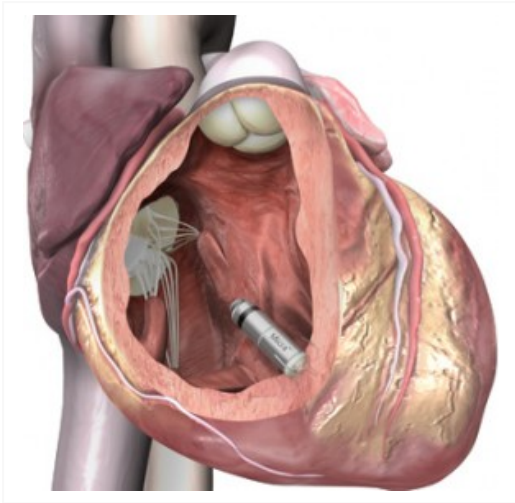
新しいペースメーカーについて

2017年9月、リードがないリードレスペースメーカーが日本で初めて販売されました。これまでのペースメーカーは胸に電池部分を植込み、そこから静脈を通して心臓にリードが留置されていましたが、新しいペースメーカーはリードも胸の電池部分もないのです。

心臓の筋肉に右の図のような100程度のチップを固定するだけ。これが電池であり心臓を刺激するリ



ードの先端の役割を果たすのです。植込みは鼠径部の静脈からカテーテルを用いて行います。体表面には何も残らないのでペースメーカーが入っているかもわかりません。電池寿命は10-12年くらいといわれています。電池の補充はできないため、電池がなくなったら電源をオフにして、新しいものを入れる必要があります。現在は1社からの販売ですが近いうちにいろんなメーカーから出てくるでしょう。機能も充実してくることが予想されます。楽しみですね。



リードがない。体表面に電池を入れる必要がない。

このことによるメリットをあげてみましょう。

- ① 感染が少なくなります。電池のポケットに穴が開いて細菌が入ることがあります。広がるとリードを通して心臓にまで感染が広がりますので早急に再手術しなければなりません。

体表面に電池がなければそのリスクもありません。

- ② リード断線の心配がありません。20年以上同じリードを使用していると10-20%程度の確率でリードの不完全断線がおこってきます。消耗品ですからしかたありませんが、そうなったら新しいリードを入れる必要がありますよね。はじめからリードがなければそのようなリスクもないわけです。

ではこの新しいペースメーカーの弱点は何でしょう

このペースメーカーは心室にしか留置できません。心房からの電気信号をひろって心室を刺激するという機能がないため すべてのペースメーカーの代用にはなれないのです。ただ、適応のある方には積極的にお勧めしたいですね。

将来的には電池の充電が体表面からできるようになるでしょう。

ますます楽しみですね